阪田知樹さん応援レポート

シンフォニー・ブランチコンサート　Vol.4

ショパンとスクリャービン　阪田知樹

2015年８月27日（木）

ザ・シンフォニーホール(大阪市）

若きピアニストによるシリーズ・コンサート

「シンフォニー・ブランチコンサート」、
大阪の「ザ・シンフォニーホール」を舞台に、若きピアニストたちが、ソロ・コンサートを連ねていく。
『一つの壮大な組曲』と、紹介されるこのコンサート、今回はシリーズ４回目。

第１回：関本昌平さんによる「オール・ショパン」で幕を開けたこのシリーズ、
阪田さんは、その流れを汲んだショパンのエチュード、及びスクリャービンの名曲を選曲。

『・・・・・・第4弾にむかえる驚異の新星・阪田知樹は、菊地（注：第３回の奏者）のショパン「エチュードOp.25」全曲に、同じショパンの「エチュードOp.10」全曲という粋な返歌で応じてみせた。
下の句には、彼が＜特別な位置を占める作曲家＞と常々語るアレクサンドル・スクリャービン。ショパンに憧れ、独自のスタイルを貫いた没後100年のロシアの巨匠は、阪田のライフワーク。どんな音の戯れを見せてくれるか、一瞬たりとも気が抜けない。2015年、ザ・シンフォニーホールのステージで、若人たちの連歌は続いてゆく…』
（『　』内コンサート・フライヤーより引用）

会場の「ザ・シンフォニーホール」は、日本初のクラシック音楽専用コンサートホール。クラシック音楽に最適とされる「残響2秒」の実現のために、英知を注いで設計されたホールである。

音響の美しさには定評があり、1982年の開館以来、内外の多くのアーティストに愛されてきた。

カラヤンに『ウィーン楽友協会大ホールに比肩する』と言わしめたここシンフォニーホール。

満を持して演奏される、阪田さんのショパンとスクリャービンに期待が高まる。

会場のザ・シンフォニーホール。
アールの外観も美しい。

『超絶技巧』を要する難曲を次々と

「シンフォニー・ブランチコンサート」、平日のお昼前からという時間設定にも関わらず、多くの方々が来場。
「阪田さんのスクリャービン、初めて聴くので楽しみです！」と、プログラム後半に予定されるスクリャービンの演奏を心待ちにするファンの方も。

阪田さん登場。
演奏は、ショパン「12の練習曲　作品10」で始まる。第１回から、『組曲』もしくは『連歌』 のように引き継がれてきたショパンの調べ。12曲を全曲を一気に奏でる豪華版である。華やかな曲、軽快な曲、阪田さんの演奏に聴き入る聴衆。

「ブラボー」の声が飛び交うなか、阪田さん自身による、挨拶と次曲の紹介が始まる。
気さくな語りに客席がぐっと惹きつけられところで、次の曲、ショパンの「英雄ポロネーズ」。指の動きが客席を圧倒する。

ホール内部。
ザ・シンフォニーホール ホームページより転載

後半は、阪田さんが『ライフワーク』と位置付けるスクリャービンの３曲。

まず代表曲のひとつである「２つの詩曲」に。続いて、「幻想曲 ロ短調」、「ソナタ第４番 嬰ヘ長調」と、いわゆる『超絶技巧』を必要とする難曲を弾きあげる。
テクニックの凄さに加えて楽曲に対する深い造詣がうかがわれ、「ブラボー！」の声が飛び交う客席。

アンコールで披露されたのは、
再びスクリャービン。「エチュード『悲愴』」。

万雷の拍手の中、マイクを片手に阪田さん登場。
『・・・平日昼間のコンサートなのに、多くのお客様にいらしていただいて、うれしく、また光栄に思います。演奏者としてモチベーションも上がります。本日は素晴らしい時間を過ごすことができました。ありがとうございました・・・』とご挨拶。

スクリャービンへの深い理解のもとに

途切れぬ拍手に阪田さん再び登場。
客席にいらしたピアニスト関本昌平さんを舞台にお呼びし、お二人のトークが始まる。

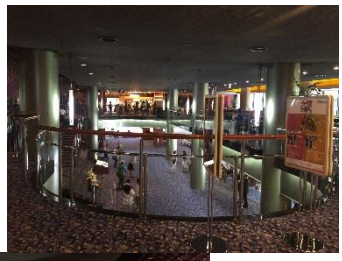
関本さんは、この「シンフォニー・ブランチコンサート」の初回の奏者。当日、開演前に行われましたプレセミナーの解説もご担当。

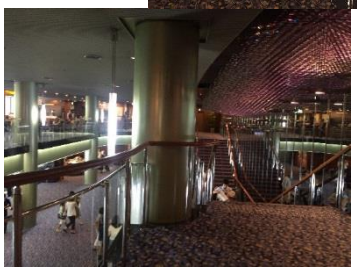
プログラム後半のスクリャービンの「幻想曲」が話題にのぼる。
関本さんから『・・・いや～、「らしくない」というか、彼自身「弾くことはないかな」と言っていた曲なんですよ・・・」と裏話が披露されました。

たしかに、コンサート前、阪田さんのFacebookには、『大好きなスクリャービンであっても「幻想曲は一生弾かない！」とあれほど言っていたのにここのところ練習を始めている。
人生何があるかわからないものです。(笑)』との投稿が。

『・・・僕自身「（スクリャービンが）なぜ幻想曲？　いい曲だとは思うけど、たぶん一生弾かない」と思っていたんです。
なのに今日、弾いてしまいました・・・』
飄々とした阪田さんの語り口に、客席から笑い声が上がる。

『・・・スクリャービンは旋律が不鮮明な作品が多いのですが、この「幻想曲」は旋律がはっきりしていて、ロマンチックな香りが強く出ている作品なんです。嫌いじゃないんですが、「弾くことはないかな」と思ってました。
でも今日はお昼間の時間帯ですし、多くの方に聴いていただきたいという思いから選曲しました・・・』。





『ショパンのエチュードで始まり、スクリャービンのエチュード（アンコール曲）で締める』という粋な構成。

終演後、阪田さんはファンの方々とのお茶会へ。
ひとことをもらうことはできなかったが、
阪田さん自身のFacebook投稿によると
『・・・個人的には、ショパンエチュード作品10-6とスクリャービンの詩曲とソナタ4番がよかったかなぁ？笑。皆さま如何でしたでしょうか？・・・』とのこと。

阪田さん、素敵な演奏でした。
「幻想曲」も。加えてトークも。
また聴かせてください！

〈演奏された曲目〉
ショパン: 12の練習曲 作品10全曲「別れの曲」「黒鍵」「革命」他
ショパン：ポロネーズ第６番 変イ長調「英雄」作品53
スクャービン：２つの詩曲 作品32
スクリャービン：幻想曲 ロ短調 作品28
スクリャービン：ソナタ第４番 嬰ヘ長調 作品30
＜アンコール曲＞
スクリャービン：エチュード「悲愴」作品８の12

【コンサート・フライヤー（表）】

【コンサート・フライヤー（裏）】

続いてゆく、若人たちの組曲

関本昌平が10年ぶりの「オール・ショパン」で幕を開けたシリーズは、
後藤正孝がショパンに自身の代名詞であるリストを加えて応え、
菊地裕介はショパンに全曲演奏中のラヴェルを組み合わせて流れを創った。
若きピアニストによる一つの壮大な組曲＝シンフォニーブランチコンサートからますます目が離せない。

第4弾にむかえる驚異の新星・阪田知樹は、菊地のショパン「エチュードOp.25」全曲に、
同じショパンの「エチュードOp.10」全曲という粋な返歌で応じてみせた。
下の句には、彼が＜特別な位置を占める作曲家＞と常々語るアレクサンドル・スクリャービン。
ショパンに憧れ、独自のスタイルを貫いた没後100年のロシアの巨匠は、阪田のライフワーク。
どんな音の戯れを見せてくれるか、一瞬たりとも気が抜けない。

2015年、ザ・シンフォニーホールのステージで、若人たちの連歌は続いてゆく…

© Ellen Appel-Mike Monland/The Album

阪田知樹

1993年生まれ。東京藝術大学2年在学中の19歳にて、第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞(4-6位)。第61回全日本学生音楽コンクール中学校の部第2位。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校在学中に、2009年第4回福田靖子賞選考会第1位、2009アジア国際音楽コンクール最優秀賞、第35回ビティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞を受賞。2012年より、名だたる世界的ピアニストを輩出し続ける「コモ湖国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められ、イタリアでも研鑽を積み、2014年には、ハノーファー音楽大学に特別首席入学を果たし、現在、ドイツ留学中。西川秀人、渡辺健二、アリエ・ヴァルディ、パウル・バドゥラ＝スコダの各氏に師事。音楽理論・作曲を高橋千佳子、永冨正之、松本日之春の各氏に師事。第39回ヤナーチェク国際音楽祭、第12回クレムリン音楽祭への出演他、フランス、スイス、ベルギー、ポーランド、チェコ、オランダ、ロシア、アメリカ、東京、横浜、大阪、名古屋等、国内外各地でリサイタルを行う。NHK-FM、FM横浜、ロシア国営テレビ、RSIスイス・イタリア語ラジオ放送局、RTSスイス・ロマンド・ラジオテレビ放送局において、演奏録音、及び、放送される。矢崎彦太郎、ヴラディーミル・ヴァーレック、レナード・スラットキン等の諸氏指揮の下、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、チェコ国立交響楽団、フォートワース交響楽団他と共演。2011年度ヤマハ音楽奨学生。第43回江副記念財団奨学生。

ビティナ×ザ・シンフォニーホール presents

シンフォニー・ブランチコンサート 次回

11:00開演

Vol.5 田村 響 Hibiki Tamura

2015. **11/10(火)** 11:00開演

2015.7.18(土)発売開始

ロン＝ティボー国際音楽コンクール優勝（フランス）

Vol.6 崎谷明弘 2016. 2.23(火)

ザ・シンフォニーホール

【交通アクセス】

- JR大阪環状線 福島駅から北へ徒歩約7分
- JR東西線 新福島駅 1番出口から北へ徒歩約10分
- 阪神電車 福島駅 2番出口から北へ徒歩約10分
- JR大阪駅から西へ徒歩約15分

【当日配布プログラム（表紙）】

【当日配布プログラム（1、2ページ）】

Chopin & Scriabin

自分を超えたものへの憧れ、理想の追求。

それは、ショパンが生きた19世紀前半には**ロマン主義**、
スクリャービンが生きた19世紀後半から世紀末前後にかけては
神秘主義というかたちで特に芸術に現れたともいえるでしょう。

共通するのは、自分を超えた理想、神的なものは、自分や世界の外部ではなく、
じつは自己の内部にこそ見出されるとする点です。

いずれも、古代ギリシアのプラトンの考えをもとにした新プラトン主義（人は神的なものを分有している）と
キリスト教の創造論（人は神の似姿）と、その発想の源泉としています。

図2）ジャン・デルヴィル『プラトン学派』

Program Note

ショパン：12の練習曲 作品10 Chopin, Frédéric: 12 Etudes Op.10

第1番 ハ長調	1. Etude in C major	第7番 ハ長調	7. Etude in C major
第2番 イ短調	2. Etude in A minor	第8番 ヘ長調	8. Etude in F major
第3番 ホ長調「別れの曲」	3. Etude in E major 'Chanson de L'adieu'	第9番 ヘ短調	9. Etude in F minor
第4番 嬰ハ短調	4. Etude in C♯ minor	第10番 変イ長調	10. Etude in A♭ major
第5番 変ト長調「黒鍵」	5. Etude in G♭ major 'Black Keys'	第11番 変ホ長調	11. Etude in E♭ major
第6番 変ホ短調	6. Etude in E♭ minor	第12番 ハ短調「革命」	12. Etude in C minor 'Revolutionary'

ショパン：ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」
Chopin, Frédéric: Polonaise héroïque in A♭ major, Op.53

ショパンの身体を存分に駆使する技巧で、イマジネーション豊かに繊細な感情とダイナミックな世界とを表現してゆく音には、ロマン主義を代表する画家フリードリヒの「雲海の上のさすらい人」（図1）と通じる精神性を感じることができるかもしれません。そこには、自分の内に潜む力をできる限り発揮して、自然や世界に挑んでゆく姿があるかのようです。

有名な「別れの曲」や「革命」が含まれる**12の練習曲 作品10**では、「滝」と称されることもある第1曲からそうした姿が感じられるでしょう。**ポロネーズ第6番「英雄」**はまさに壮大なロマンティシズムが感じられる作品です。

図1）カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ『雲海の上のさすらい人』

スクリャービン：2つの詩曲 作品32 Scriabin, Alexander: 2 poemes Op.32

Ⅰ. 嬰ヘ長調 I. in F♯ major
Ⅱ. ニ長調 II. in D major

スクリャービン：幻想曲 ロ短調 作品28 Scriabin, Alexander: Fantaisie in B minor, Op.28

スクリャービン：ソナタ第4番 嬰ヘ長調 作品30
Scriabin, Alexander: Sonata for Piano No.4 in F♯ major, Op.30

第1楽章 アンダンテ Mov.1 Andante
第2楽章 プレスティッシモ・ヴォランド Mov.2 Prestissimo volando

スクリャービンはショパンのスタイルを受けつぎつつ、今回とりあげられた中期の作品（**2つの詩曲 作品32、幻想曲 作品28、ソナタ第4番 作品30**）とそれ以降では独自の「神秘和音」と呼ばれる不思議な感じがする音を用いてゆくことになります。内面に潜む日常的な感覚を超えたものをとらえる洞察、想像を思わせられます。

ショパンとくらべると、自分の最奥部に潜む自分を超えたものへの畏怖のような感覚が一層強くなっていると指摘することもできるでしょう。

スクリャービンが深い関心を寄せていた画家デルヴィルの代表作『プラトン学派』（図2）では、旧約聖書の楽園のような背景のなか、中央にイエス・キリスト、その周囲には古代ギリシアのヌードを思わせる人々が配置され、古代ギリシアとキリスト教との結びつきが描かれています。

フリードリヒの絵だと、『雲海の上のさすらい人』（図1）より、『海辺の修道士』（図3）の感覚に近づいたともいえるでしょう。雲は隠れた神の存在を象徴しますが、その上ではなく、完全に下に主人公がいます。

各曲のなかで「さすらい人」と「修道士」とがどのように表現されているか、耳を澄ませて探究することもできるでしょう。

図3）カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ『海辺の修道士』

曲目解説：松村 謙

【当日配布プログラム（裏表紙）】

阪田知樹

1993年生まれ。東京藝術大学2年在学中の19歳にて、
第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞（4-6位）。
第61回全日本学生音楽コンクール中学校の部第2位。
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校在学中に、第4回福田靖子賞選考会第1位、
2009アジア国際音楽コンクール最優秀賞、第35回ビティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞を受賞。
2012年より、名だたる世界的ピアニストを輩出し続ける「コモ湖国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められ、
イタリアでも研鑽を積み、2014年には、ハノーファー音楽大学に特別首席入学を果たし、現在、ドイツ留学中。
西川秀人、渡辺健二、アリエ・ヴァルディ、パウル・バドゥラ＝スコダの各氏に師事。
音楽理論・作曲を高橋千佳子、永冨正之、松本日之春の各氏に師事。
第39回ヤナーチェク国際音楽祭、第12回クレムリン音楽祭への出演他、
フランス、スイス、ベルギー、ポーランド、チェコ、オランダ、ロシア、アメリカ、東京、横浜、大阪、名古屋等、
国内外各地でリサイタルを行う。
NHK-FM、FM横浜、ロシア国営テレビ、RSIスイス・イタリア語ラジオ放送局、
RTSスイス・ロマンド・ラジオテレビ放送局において、演奏録音、及び、放送される。
矢崎彦太郎、ヴラディーミル・ヴァーレック、レナード・スラットキン等の諸氏指揮の下、
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、チェコ国立交響楽団、フォートワース交響楽団他と共演。
2011年度ヤマハ音楽奨学生。第43回江副記念財団奨学生。

Tomoki Sakata

© Elen Appel-Max Vorsand-The Cliburn

チケット発売中!

ビティナ×ザ・シンフォニーホール presents

シンフォニー・ブランチコンサート

Vol.5 田村響

Hibiki Tamura

2015.
11.10（火）11:00開演

ロン＝ティボー国際コンクールピアノ部門優勝者!
全身全霊で捧げる魂の音楽!

≪ショパンとベートーヴェン≫
ベートーヴェン:
ピアノソナタ第20番 ト長調 Op.49-2
ピアノソナタ第8番 ハ短調 Op.13「悲愴」
ショパン:
3つのワルツ Op.34
2つのワルツ Op.69
ワルツ第1番 変ホ長調「華麗なる大円舞曲」Op.18

9月19日（土）発売開始

ビティナ×ザ・シンフォニーホール presents

シンフォニー・ブランチコンサート

Vol.6 崎谷明弘

Akihiro Sakiya

2016.
2.23（火）11:00開演

ハエン賞国際ピアノコンクール（スペイン）優勝!
凄まじいエネルギーと繊細なやさしさの融合、若き大器!

≪ショパンと珠玉の名作たち≫
ベートーヴェン:
ピアノソナタ第14番
嬰ハ短調 Op.27-2「月光」
ショパン:
ノクターン第1番・第2番・第3番 Op.9
リスト：ラ・カンパネラ
ドビュッシー：月の光
リスト：ドン＝ジョバンニの回想